

広葉樹萌芽発生のための伐採適期

福島県林業試験場 造林経営部
福島県林業試験場研究報告第31号
分類コード 18-07-1200000
部門名 林業-造林-更新方法

I 新技術の解説

1 要旨

広葉樹の持続的活用を図る目的で、伐採時期が伐根の萌芽発生にどのような影響を与えるかを把握するため、5～11月の月ごとにコナラを主に8樹種37本を伐採した。

伐採高は地際上20cmとし、樹木の成長期である5月～9月伐採と成長休止期である10月～11月伐採とに分けて、萌芽発生状況を調査した。

(1) 萌芽発生率(3年後)

ア. 成長期の伐採区 : 伐採木27本中17本発生、発生率63%

イ. 成長休止期の伐採区 : 伐採木10本中 9本発生、発生率90%

(2) 萌芽の本数

ア. 成長期 : 1年後萌芽総本数347本から3年後132本へ38%に減少
1株当たり本数平均18本から平均 8本に減少

イ. 成長休止期 : 1年後萌芽総本数311本から3年後107本へ34%に減少
1株当たり本数平均31本から平均12本に減少

(3) 萌芽の枝長

ア. 成長期 : 1年後平均枝長24cmから3年後43cmへ1.8倍の伸び

イ. 成長休止期 : 1年後平均枝長22cmから3年後60cmへ2.7倍の伸び

伐根からの萌芽発生率、発生した萌芽の本数、枝長の伸びと全て成長休止期の伐採が優っていた。

2 期待される効果

広葉樹の伐採が適期に行なわれることにより、萌芽の発生状況が良好となり、円滑な更新が進み資源の持続的活用が図られる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

伐根から発生した萌芽の整理は、個体間の競合により自然淘汰された後の4～7年目ごろに、1株当たり3～5本仕立てとし、次いで15年目ごろまでに1株当たり1～3本仕立てとする。

II 具体的データ等

1 主要な参考文献・資料: 福島県林業試験場研究報告第31号